

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	青森県立はまなす医療療育センター		
○保護者評価実施期間	令和8年3月2日	～	令和8年3月13日
○保護者評価有効回答数	(対象者数) 9	(回答者数)	7
○従業者評価実施期間	令和8年3月2日	～	令和8年3月13日
○従業者評価有効回答数	(対象者数) 10	(回答者数)	10
○訪問先施設評価実施期間	令和8年3月2日	～	令和8年3月13日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数) 9	(回答者数)	8
○事業者向け自己評価表作成日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	各専門職が個々、場面（環境、姿勢、移動、食事、児への対応で配慮する事等）に応じた支援が出来る。	・センターでの様子、行っている事等、資料にまとめ提示している。 ・児、保護者だけでなく訪問先からも事前に聴取し、聴取した事項に合わせた資料や提案を準備し訪問している。	訪問スタッフ以外のスタッフも交えケースカンファレンスを訪問前後で行っていく。
2	訪問後も訪問先と直接メールや電話でも連絡を取りながらその都度必要に応じた支援を行っている。	メール等連絡の取りやすい方法を共有している。	相談事がない場合でも定期的に児の様子等を確認する必要がある。
3			

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	個別支援計画書の共有方法が明確でない。	保護者に説明前に担当者で確認、保護者から同意を得た後に共有フォルダに保存しているが、担当者のみへの周知となっている。	担当者会議、カンファレンスの機会を増やし個別支援計画書の共有を行う。個別支援計画書の見直し機会を増やす。
2	ガイドラインの習熟度がスタッフによって偏りがある。	スタッフ全体で確認する場を設けておらず、スタッフにより習熟度に偏りが生じている。	個々のカンファレンス以外にガイドラインの確認や専門家の助言等求める場を設定する必要がある。
3			